

議録:令和7年度 第1回 SL 復元準備委員会(要旨)

日時:令和7年12月8日(月) 14:00~15:30

場所:恵那市役所西庁舎災害対策室

1. 開会

事務局より「SL 復元準備委員会」設立の趣旨説明

○ 事務局井手(交通政策課長)

令和5年度、令和6年度の2年間にわたり開催された「SL 復元検討委員会」において、SLの復元運行には、資金調達及び事業継続に必要な環境整備が課題であるものの、これらの課題が解決できればSL 復元運行は実現可能であるとの意見が市に対し示された。

その検討委員会での意見を受け、今回準備委員会として新たに設置し、SL 復元運行の更なる実現に向かうべく、様々な立場から見識のあるご意見をいただきたく、ご参集していただいたものである。

2. 委嘱式

委嘱書の交付。(机上配布)

3. 自己紹介

この準備委員会が設立されて初めての会議のため、各委員より自己紹介をお願いしたい。
各委員一言ずつ挨拶。

4. 事務局挨拶(まちづくり企画部鷹見部長)

まちづくり企画部長の鷹見です。事務局を代表し挨拶をさせていただきます。

年末のお忙しいところご参集いただいたこと感謝する。

リニア中央新幹線の開業が、沿線地域にもたらす多角的なインパクトは計り知れないということは、皆さん異論ないかと思う。このインパクトを恵那市の産業観光、沿線地域の活性化のための一つのツールとして、恵那市が所有するC12型を復元し、走らせるプランの可否について、復元検討委員会で議論をかさねていただき、市に報告をいただいた。

今回いただいた検討結果を基にSL 復元準備委員会を立ち上げる。SL 復元検討委員会で判断された条件付きで可能とされた「資金調達の方法」及び「事業が継続できる仕組み」などを一歩踏み込んで検討いただくことが主眼となってくる。回数を重ねる委員会になると思うが、事務局として、円滑にこの会が進むよう協力を強く心がける。

活発なご議論をお願いする。

4. 第1号議案 役員の選任

- 事務局:本委員会規約第 5 条の規定に基づき、会長及び副会長を選任する必要がある。選任方法について、ご意見はないか。
- 渡邊委員:事務局に一任。
- 事務局:事務局一任という意見があったが、よろしいか。
- 委員:異議なし。
- 事務局:事務局より提案する。本 SL 復元準備委員会は、SL 復元検討委員会を踏襲する形で組織する委員かであることから、引き続き会長に恵那市観光協会の阿部伸一郎様、副会長に恵那市地域自治区会長会議の柘植恒雄様にお願いしたい。
- 委員:異議なし。
- 事務局:異議なしということで、第 1 号議案役員の選出について、会長には阿部様、副会長には、柘植様にお願いする。
会長、副会長より挨拶をお願いしたい。
- 阿部会長:ただいま当委員会の会長を拝命しました阿部と申します。
SL 復元検討委員会では、条件付きで可能であると結論を出した。当委員会で、その条件について議論を行う。この 2 年間の中では、大井川鉄道への視察、三菱 UFJ 関連会社にインシヤルコスト、ランニングコストがどうなるのか課題の試算を行ってきた。その中で条件付きであれば可能という結論を出した。
恵那市だけでなく全国的な課題である人口減少。このまま沈まずチャレンジして生き残ること大切である。そう考えたとき、恵那市を活性化させるための資源は恵那市には、多様にある。その中の一つは明知鉄道の SL である。
現在恵那市 C12 型の蒸気機関車を生体保存している。将来的にリニア中央新幹線が開通することで、リニアと SL の融合する世界唯一の町恵那ができると思っている。
地域活性化のために SL は有効な手段である感じている。
資金面、継続的な運行の 2 点を当委員会で深堀して検討していきたいと思っている。
皆様の様々なご意見、知恵を拝借し、前に進んで行きたいと思う。
- 柘植副会長:ただいま副会長を拝命しました柘植と申します。
阿部会長を支え、SL の復元に向けて検討を行っていききたい。

5. 第 2 号議案 令和7年度事業計画

- 会長:2号議案について事務局に説明を求める。
- 事務局:令和7年度事業計画(案)について(資料 2～3)、説明。
- 会長:皆様にご意見を求める前、私から一言申し上げる。
インシヤル・ランニングコストについて、資料を見るとインシヤルコストから運賃を引いた額が、赤字だと感じるが、インシヤルコストの中には、車検も含まれている。SL の車検は、車両の車検とは違い、走行距離によって車検が発生する。資料では多く見積もっている。

SL の車両検査に係る費用を1億とすると、年間の売り上げ 8,550 万、経費が 5,600 万となり、年間 3000 万の黒字が出る試算となる。

また、5, 6 年で車検があった場合でも、県、市より 5 割は補助が出る。沿線の中で過疎地も含まれており、ランニングコストに過疎債も出る試算となる。この資料は、恵那市が石橋を叩いて作った資料であることをまず認識いただきたい。

では、改めて委員の方へ意見を求める。岐阜県恵那県事務所長の清水様お願いしたい。

- 清水委員：経済規模が縮小していく中で、どうしたら稼げる地域にしていくか。それは、地域で作ったものを外で売る。そして、もう一つは、外から人を呼び込み、お金を落としてもらう。人を呼び込むためには、本物であること、ここにしかないこと、体験できること。SL は、見るだけでなく、乗る、走ってる SL を写真に撮る、そしてここにしかないものを買う。そこに結びつくと感じている。かなりの投資が必要であり、ランニングでも資金は必要である。県にとっても、多くの人を呼び込める取り組みであると感じているため、その中で SL をどのように活用できるかということについて、県としてサポートしていきたい。
- 高木委員：商工会議所として、実績を基になにができるかを話させていただく。復元の資料にも記載があるが、恵那市と商工会議所で協定を結び、商工会議所の窓口業務として、企業版のふるさと納税を募っていく活動を行っている。私どもとしても、日本全国色々な業種から仕入を行っており、様々な付き合いがある。私としても、恵那市の事業を応援するために取引のある企業に、企業版ふるさと納税をお願いしている。
SL 事業についても、様々な面で協力をしていければと思っている。
- 浅井委員：恵那市恵南商工会の代理で出席している。
会長である加藤からも地元での協力は事業を継続する上で重要な事柄であると聞いている。この SL の復元に向けても、地元の企業も協力しながら、できることを商工会も声かけしながら協力できたらと思う。
- 安藤委員：自分が幼少期の時に SL が走っていた記憶がうっすらと残っている。自分も乗ってみたかったと思っているところである。SL が復元した際に、乗るという体験が、リニアの開通が迫っている時代に、あるというのは大きな価値だと感じている。
山間地を走っている姿も絵になると思いますし、若い世代が貴重な体験ができると期待している。
- 伊藤委員：整備をする身として意見をさせていただく。東武鉄道が運行している SL について、運行開始当初の 5 年前と今年 10 月に行かせていただいた。5 年前は、地域ぐるみで、SL をバックアップしていた。今年行ったときも継続して、地域ぐるみでバックアップしていると感じた。蒸気機関車を維持していく仕組みづくりは、金銭面や技術面でとても難しいことである。そのために、技術を後世につなげていく、育成していくことが大切であることをわかってほしいと思う。
- 渡邊委員：明知鉄道の専務であり、SL ファンクラブの会長でもあるので、その点を踏まえてお話しさせていただく。先ほど清水委員からもあった通り、実体験が大切だと思っている。

例えば、土日、夏休み期間中に、本線運行するであったり、平日の空いている時間帯の構内運転を検討していけば、一体となって、誘客につながると感じている。

- 大塩委員：課題の一つである資金面について着実な数字をはじき出し、様々な手法を使い、ぜひ SL 運行が実現できればと思っています。
- 大野委員：中部運輸局鉄道部より、アドバイザーとして出席している。
行政の立場から、SL の運行をしようとしたとき、国土交通大臣の確認を受けないといけないこの確認について、ハードルが高い手続きになると感じている。
車両の車検について、重要部検査は、3 年周期、全般検査は 6 年周期だといわれている。
この検査については、資料に記載のとおりコストがかかる検査である。
ボイラーについても検査周期がある。こういった制度面で協力できたらと思っている。
- 下平委員：資料の中に記載のある補助金について、公共交通の補助金が活用予定かと思われる。運行開始時期はまだ決まっていないが、使えるものは使っていただきながら経費の面でサポートをしていけたらと思っている。
- 水野委員：明知鉄道が、これから先も継続して走り続けるためには、お客に乗っていただくことが大切である。沿線の地域住民が減っていく中で、外からの誘客が大切である。そのために、あらゆる手立てをとっていく必要がある。何もしないことが一番ダメなことであるので、ハードルは高いが、チャレンジしていくことが大切だと思っている。実現に向け、努力していきたい。
- 柘植委員（議長）：恵那市にしかできない SL 事業は魅力的だと思っている。
一方で、市議会からの立場から申し上げると市の予算を執行するということですので、様々な観点から考えないといけないと思っている。
- 竹内委員：SL は外部から見ても、走ることは魅力的であるし、技術の継承の取り組みは、重要であると感じている。事業の継承、資金面に関して、企業版のふるさと納税など手法は様々あると思っている。それを得るために、恵那市らしさを伝えることが重要である。恵那市の観光業がどういう状況か、SL が来ることでどれだけ上振れするのかということを見せていくことが、恵那市らしさにつながってくる。
恵那市らしさを強化するために、数字で見せる提案書を作っていくことが重要でありますし、外部へ伝えていっていただきたい。
- 石川委員：整備をする身からお話しさせていただく。
先ほど中部運輸局の方からもお話があったが、使っていないボイラーは、これを再度使用しようとしたとき、使用検査を厚生労働省の管轄になるが、受けないといけない。こちらはハードルが高い。その後は、1 年に一回ボイラー性能検査を受けないといけない。こちらについては軽微な検査である。
皆様が懸念されているのは、資金面かと思われるが、目に見えにくい数字は多くあり、人の意識、技術で削減できると感じている。今出ている数字は、最高に試算した場合の金額が乗っていると感じている。

山間部を走る SL の場合だと、不要となった木材を種火に使うことで、燃料代の削減につながる。SL を扱う人の意識によって、費用面では大きく変わってくる。

人の知恵を使って、最低限必要なものが見えてくれば、大きく運行に近づくと感じている。

- 山本委員：市民として、お客が来たときにどういったおもてなしができるのか、市民として知っておくのが、大切であると感じた。SL の運行も大切であるが、市民がおもてなしを学ぶ空間機会も重要だと感じた。
- 柘植副会長：もともと信州出身であり、修学旅行で東京まで SL で行った思い出がある。恵那市で SL 運行が実現し、蒸気と共に煙を出す勇壮な姿を、ここ恵那市で実現するば、いいなと思っております。
- 阿部会長：ご意見ありがとうございます。それではほかに意見等なければ審議に入ります。第 2 号議案について異議ございませんか。
- 委員：意義なし。
- 阿部会長：異議なしと認め、第 2 号議案令和 7 年度事業計画を承認する。議案が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しする。

6. その他

- 事務局：慎重審議ありがとうございました。

意見を参考に、承認された事業計画に沿って進めていく。

その他、議題以外で委員より質問ご意見等があれば伺いたい。ないようですので、事務局より今後の予定について説明させていただく。本日承認をいただいた事業を進めるため、SL 復元準備部会を今後開催し、課題解決に向け検討を深め、来年 3 月に第 2 回の準備委員会の開催を予定している。開催日時については、改めて案内する。

これにて、令和 7 年度 SL 復元準備委員会を終了させていただく。長時間にわたるご審議感謝する。